

上植木廃寺(伊勢崎市)

かみうえき

この辺りが上植木廃寺のエリア/説明板が立っている



7世紀後半の建立という

かみ うえ き はい じ 上植木廃寺

本関町・上植木本町

上植木廃寺は7世紀後半に建立され、遺構・出土瓦の検討から11世紀頃まで存続した本格的な古代寺院であることが判明しました。

伽藍は、^{がらん}金堂を中心にその南西に^{こんどう}塔、北に講堂を配置し、^{ちゅうもん}中門からの回廊は講堂に取り付きます。この伽藍配置は全国的にも珍しいものです。

中心伽藍は南・北を溝、東・西を柵列で画された区域内に位置し、その規模は南北238m、東西115mに及び、南門も検出されています。また、講堂の北方には^{じきどろ}食堂と考えられる^{ほったてばしらたてものあと}掘立柱建物跡が、中門の西方160mの地点では創建期の^{がようあと}瓦窯跡（上植木廃寺瓦窯）が見つかっています。

出土遺物の大半は瓦で、軒瓦には30種類以上の文様が認められます。創建期の軒丸瓦は、^{たんべんはちようれんげせん}単弁八葉蓮華文が多く、奈良の山田寺の系譜をひくものです。軒平瓦には^{すだれじょうじゅうこせん}簾状重弧文という関東地方には珍しい文様も確認され、さらに佐位郡の郷名を刻した文字瓦も出土しています。屋根瓦は、上植木廃寺瓦窯のほか、勢多郡新里村の雷電山瓦窯などで作られたものも用いられていました。

上植木廃寺を造ったのは古代佐位郡の有力者と考えられ、この地域が佐位郡の中心であったと推定されています。

平成16年3月1日
伊勢崎市教育委員会





この方向に中心伽藍があったのであろうか



この方向は南門方向



中門の辺りか



こちらに金堂、講堂、更に掘立建物跡と続くようだ



参考ホームページ

<http://www.gunmaibun.org/remain/guide/tyumo/kamiueki.html>

https://blogs.yahoo.co.jp/npcsk058z/34520912.html?_yp=5LiK5qSN5pyo5buD5a%2B6

